

私の教育実践 ～ 二つの周年記念事業 ～

愛媛県立みなら特別支援学校 校長 藤田 司

私が校長として勤務したのは、今治特別支援学校とみなら特別支援学校です。この二つの学校いずれも、私が赴任した年が学校創立の周年行事の年に当たりました。学校の歴史に校長として携っている重みを実感しながら、周年事業に臨みました。



1 今治特別支援学校 平成30年度：学校創立40周年

同校は、養護学校教育義務制がスタートした昭和54年、今治養護学校として開校しました。初年度に小・中学部、訪問教育に166名の児童生徒が入学しており、これは平成30年度の在籍者を上回る人数でした。東予地域で暮らす障がいのある子どもたちに、専門的な教育を行う学校ができた、と地元の大きな期待が寄せられたことが分かります。

創立40周年の記念事業は、児童生徒と一緒に工夫し、一緒にお祝いをする「等身大」の取組を目指しました。その象徴が「チャレンジ40」で、学級や学年ごとに「本を40冊読む」「40種類のスポーツに挑戦!」「友達を40人つくる」など、児童生徒が「40」にちなんだ目標に挑戦しました。それぞれの達成状況は随時、学校ホームページや廊下の掲示板で紹介され、学校の節目を全校で祝おうという機運が盛り上がっていきました。

また、生徒のアイデアで誕生した学校のマスコット「さくらっぷちゃん」をモチーフにし、新しい作業製品が次々と登場しました。日常の学習活動の延長線上で創意工夫を凝らし、手作りの温かい周年事業が展開できました。

2 みなら特別支援学校 令和4年度：学校創立50周年

同校は、昭和48年に第三養護学校として開校しました。養護学校教育義務制に先立ち、県立では初の知的障がい教育を専門とする学校（初年度は小・中学部の設置）の開校で、111名の児童生徒が入学しました。その後、高等部、訪問教育が設置され、教育環境の整備・充実が進みました。

開校から50年後、全校児童生徒数は450名を超え、特別支援学校としては全国有数の大規模校となりました。かつて隣接していた旧第二養護学校の敷地も合わせ、八つの教棟と三つの体育館、寄宿舎棟を有する広大なキャンパスは、来校者を驚かせています。

創立50周年である令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の波が収まっていませんでした。記念式典は最小限の参加人数にし、内容もコンパクトにして、式の模様を学校内で同時配信するまでとし、卒業生や旧教職員、地域の関係者などをお招きして盛大に祝うことは割愛させていただきました。

その分、在籍している児童生徒が仲間との思い出を共有できるように、学部単位で集合型の記念イベントを体育館で行いました。ミュージカル観劇や音楽鑑賞会、プロスポーツ選手との交流会など、本格的な芸術やスポーツを体験し、にぎやかな時間を過ごすことができました。

実は2校ともに、教諭として勤務し、学級経営や授業に励んだ時期があります。周年事業に絡んで学校の歴史を辿ると、当時、自分が関わった人や出来事も思い起こされ、感慨はひとしおでした。記念式や各種イベント、記念誌や記念品の制作など、教職員みんなで一から知恵を絞り、児童生徒を主役に据えながら、学校の組織力を生かして事業が成し遂げられていくさまは圧巻でした。

校長として二つの学校の周年記念事業に関われたことは、私の大きな財産です。